



「2016年春季 JNN 社長会」で 武田社長が基調報告

3月17日(木)、ホテルニューオータニにおいて「2016年春季 JNN 社長会」が開催され、武田社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

東日本大震災から5年が経ち、様々な番組でいろいろな視点からの特集、そして特番を放送したが、JNN各局からは大変なご協力をいただき、特にIBC、TBC、TUFには改めて感謝を申し上げます。

15年度のTBSテレビ業績は、微増収。営業利益はほぼ横ばいで着地。年度を通しての視聴率は、全日5.9%で前年度と同じ、G帯9.9%で0.4ポイント上昇。P帯は9.8%で0.5%の上昇。全日5位、G帯4位、P帯3位。P帯3位は11年ぶりだ。早く来年度は二桁に乗せたいと考えている。

この半期を振り返ると、バラエティ番組のイメージの向上、それとドラマは『下町ロケット』や『コウノドリ』などがあり、まずまずの成績だったと思っている。スポーツ関連では「世界野球プレミア12」や、「世界陸上北京大会」があり、スポーツ真剣勝負のTBSのイメージを視聴者や広告主の方々に持ってもらえたと思っている。

JNNでは西からの視聴率上昇の流れが続いている。相変わらず好調のRCCは、10月、11月、2月にGP帯2冠を獲得された。MBCは全日の年度1位がほぼ確定した。またRBCはGP帯ともに年度1位を獲得する。この波は北にもくる気配があり、HBCが下期のG帯で2位につけP帯も2位に肉薄している。TBC、TUFが下期のGP帯で好調を維持している。

4月改編は引き続き小幅にとどめている。G帯の月曜日と日曜日のバラエティの強化とアニメ枠の新設を決めた。TBS発13年ぶりの全国ネットアニメ番組『カミワザ・ワンダ』をスタートさせる。重点強化番組としてきた朝ベルト帯もジワジワと上がり、手応えを感じ始めている。4月(期首)からはコメンテーター、お天気キャスターの人選や企画を見直すなど工夫を凝らし、数字を上げていきたいと思っている。今年の「リオオリンピック」では女子マラソンを引き当てたほか、日本人選手が活躍する種目を揃えているので、このあたりで爆発させたいと思っている。

在京5社で始めた「民放公式テレビポータルTVer」は昨年10月サービス開始以降、アプリの累計が現在220万DLを突破した。在京5局だけでなく、ローカル局の作品もアップされている。3月1日には「デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー15/第21回AMDアワード」の年間コンテンツ賞「優秀賞」を受賞した。営業上の反響も呼んでおり、もっともっと発展させたい。

JNN 関連では、来週「北海道新幹線」が開業するのに合わせ、HBC、ATV、IBC、TBC、そしてTBSの5局が協力して、1月から毎週日曜日の昼に沿線情報をお知らせする番組『タビノバ』を放送している。この番組はJR北海道とJR東日本が初めて共同提供したもので非常に意義が大きいと考えている。

海外では、ベトナムVTVテレビと共同で日本の魅力を紹介する番組が、ATV、TUY、BSN、TUT、SBC、OBS、MBCに協力いただき始まっている。タイではTBC、UTY、CBC、NBCとアマリンTVとの共同制作番組『I-I-YO-NE!JAPAN』の放送も始まっている。

また、昨年放送したローソンドラマ『3つの街の物語』をきっかけに、各局の皆様のご協力を得て、地元のメニューを調べてピックアップし「からあげ・パン・おにぎり」の商品化のネタ提供をいただいている。現在、各地域から100を超えるネタをいただいているようで、それが商品化すれば更に盛り上がり、スポンサー様との良いコミュニケーションツールになると思う。皆様のご協力に本当に感謝している。

以上